学 校 だ よ り　12月号

文京区立第一中学校　令和５年１２月２１日（木）

強　さ

校　長　　田　島　佳　子

自然淘汰：生存上の諸条件に適する生物は生き残り、適しない生物は滅びるということ。
　　自然選択。

１１日の昼放送で渡り鳥の話をしました。越冬のために渡ってきた鳥たちは、丘のこちら側と向こう側の湖に分かれて降り立ちます。湖の大きさや気象条件などはほぼ同じです。こちら側をＡ、向こう側をＢとしましょう。Ａの湖の近くに心の優しいおじいさんが住んでいました。渡り鳥のために毎日餌をあげました。Ｂの湖の近くには人が住んでいませんでした。ひと冬過ぎた頃、鳥たちは戻っていきました。Ａの湖の渡り鳥は全羽が元気に帰って行きました。Ｂの湖の鳥は１／３以下に減ってしまいました。毎年渡り鳥が来るとおじいさんは餌を与えていました。年々数が増えていき、最初の頃の何倍もの数になりました。Ｂの湖の鳥たちも少しずつ数を増やし、１０年経った頃にやっと最初に来たときと同じくらいの数になりました。そして、１０年が過ぎたある冬、たくさんいたＡの湖の鳥が全滅してしまうのです。なぜでしょう？それはおじいさんが亡くなってしまったからです。餌をくれる人が居なくなってしまったのです。野生の鳥は自ら餌を採ることができます。ところが何年も餌をもらっていたので、自分の力で餌を採ることができなくなってしまったのです。その反対にＢの鳥は厳しい自然環境に耐えて自らの力で餌を採って生き延びた、強い鳥たちの仲間や子孫が確実に命を繋いでいったのです。

数年前の夏にあまりにも暑かったので涼しいところに行きたいと思って、１０日間ほど釧路に行きました。夏なのに１８度くらいの気温でした。せっかくなので、釧路の大自然を満喫したいとの思いから、旅の中心は釧路湿原としました。歩いたり、カヌーで釧路川を下ったりしました。手つかずの自然のど真ん中に入って、野生の鹿やオジロワシ、タンチョウヅルを見ました。釧路川のほとりにオジロワシの親子がいました。おそらく飛び方を教えていたのでしょう。子供のワシは羽を広げていましたがなかなか上手に羽ばたくことができませんでした。私たちの気配に気がついて親鳥はバサッと逃げていきました。子供のワシは必死で羽を羽ばたかせますが、飛べません。親鳥は戻ってきてまたすぐに飛び立ち、何度も飛び立ち方を見せます。私たちのカヌーが向きを変えて音と水の流れが変わったときに、親鳥がまた、バサッと飛び立ちました。さっきは飛べなかった子供のワシがなんとか低いところでしたが飛んで行くことができました。敵が近づいてきたときに逃げられないとやられてしまいます。親鳥もほっとしたことでしょう。カヌーで少しくだると、今度はタンチョウヅルの親子がいました。水辺でくちばしを水の中に入れて餌の採り方を教えていました。

身につけましょう。生き抜く強さを。

埼玉県のふじみ野市の農家で栽培している苺はただ甘いだけでなく酸味もあってとても美味しいので、わざわざ車で買いに行きます。田植えや稲刈り、はざ掛け、野菜の収穫、餅つき、味噌作りなどの体験もできる農家です。お米とお餅と苺はその農家で買っています。

なぜお店で売っている苺と違うかというと、水耕栽培が多くなった苺ですが、様々な栄養分がある土の栽培にこだわり、ミネラルたっぷりの井戸水を使用しているからです。「無加温」「照明を当てない」育て方をしています。無理して人工的に実らせるのではなく、自然の状態で、本来の苺がもつ生命力だけで栽培します。実がなって収穫できるまでに普通の苺よりも日数がかかりますが、本来の苺の酸味と甘さがでてきます。そしてなんといっても香りがいいのです。

冬は苺の美味しい季節です。

いのちと心の授業　11 月 24 日　1 年

高齢者疑似体験　11 月 17 日　2 年

5 組　お楽しみ会

12 月 9 日

茶道教室　1 年

12 月 15 日

薬物乱用防止教室　全学年

12 月 9 日

音楽　三味線

12 月 5・8 日

シエナオーケストラ演奏会 全学年

11 月 28 日

百人一首 12 月 21 日　1 年、5 組